

令和2年度第1回総合教育会議会議録

日 時 令和2年12月16日(水) 午前10時 開会

場 所 能登川東小学校

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
教育長	藤田 善久	教育長職務代理者	綾 康典
教育委員	青地 弘子	教育委員	沖田 行司
教育委員	篠原 玲子	教育部長	大辻 利幸
教育部次長	沢田 美亮	管理監(学校教育担当)	三輪 光彦
教育研究所長	國領 順子	教育総務課長	中西 美智代
秘書課長	中堀 智之	能登川東小学校長	井上 照美
学校教育課参事	谷村 昌則	能登川東小学校教頭	木村 真也
事務局(教育総務課長補佐)	中野 里栄子		

以上17名

開会

教育部長

皆さん、おはようございます。本日はこの冬一番の冷え込みで、大変お寒い中、令和2年度第1回総合教育会議に、お集まりいただきありがとうございます。

ただ今から、会議を始めさせていただきます。本日、司会を務めさせていただきます教育部長の大辻です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに小椋市長から、御挨拶をいただきます。

市長

改めまして、皆さん、おはようございます。教育委員の皆さまにおかれましては、いつも教育行政に大変熱心に取り組んでいただいております、様々な御指摘をいただき、誠にありがとうございます。

今年度、今日が第1回の総合教育会議の開催でして、新型コロナウイルス感染症のもたらした影響が予測できなかったところまで広がり、ある意味最も大きな影響を受けたのが学校ではなかったかと思っています。先生方、よく今まで乗り越えてきていただきました。その健闘といいますか、御努力に対し、頭の下がる思いであります。3月から3箇月間、休校の措置を取りましたが、メリハリのある対応を本市としてもしてまいりました。

感染症対策だけでなく社会機能の維持が非常に大切なことです。経済対策を含め、今の議会にも第6弾として補正予算を上げさせていただいております。これにつきましても様々な職員の英知を絞り、弱者救済、経済支援として、特に、飲食店が潰れないように、困っているところに行き届くように、第5弾では各病院、医院に対し、PCR検査等で協力していただいている医療機関には手厚く支援しました。

また、ひとり親家庭には一世帯当たり5万円の給付として、目に見える形でメリハリのある経済対策をしてきました。

よその市町がどんなことをしているかなど脇目もふらず、本市がどうなんだということ

で、各企業を回ったり、学校の実情など、そういう意味ではありがたいことにコロナ禍において倒産した会社、店をたたんだ居酒屋、飲食店は今のところ出ておりません。しかし、御承知のとおり第3波がきております。昨日現在で、877人の感染者です。毎日5、6人で出ておりますが、本市は今のところ33人となっております。近畿の中では増え方として穏やかで急上昇しておりません。感染としては、家庭内感染、職場感染、私が一番懸念しているのは過敏に反応しすぎて、鬱になる可能性があることなんです。心の病になったり、大げさに考えますとテレワークで夫婦と一緒に居ることで、けんかになり家庭不和になったりするという事聞いています。

能登川東小学校は地域、地元、自分の生まれ育ったふるさとというものに対する思いを醸成するような教育をやっていること、非常にありがたいことだと思っています。国家上げての危機なわけですが、価値観の転換が今、可能な状況になっています。戦後、経済成長を遂げていた日本が先進国に肩を並べて、追い越して、GDPが2位になった時期もありました。最高にいけば落ちてきます。一番がダメなわけではなくて、これからは人口減少の時代になって量の時代は終わり、これからは質の時代がくるだろう、貨幣経済中心にまわってきたこの国のありようがこれからは豊かさとか幸せはいったい何だろうということ子ども頃から価値観を植え付ける教育をしていただきたい。その時に、従来の東京一極集中もそうでしょうけれど、義務教育が終わり高校、大学、就職の時になぜ都市に向かうのかということなんです。自分が生まれ育った地域と絶えず密着した教育をしていれば、郷土愛、いわば家族愛、地域愛、国家愛、言葉を変えると愛国心、愛国心と言いますと右翼かと言われることはもう終えないといけないと思います。貨幣経済中心で経済的価値が豊かさの象徴であるかのような教育を我々も受けました。

特に滋賀県のこの地域は近江商人の影響を受けてきました。出世とは何ぞや。私も公務員になった時に何を言われたかということ、滋賀県独特の文化、特に能登川含めてここは神崎郡です。立身出世とは何ぞや、銀行や商社に入り、そこで出世をして、業をおこして「公務員になってどうするのか」と言われました。滋賀県人、霞ヶ関で仕事をしてきましたが、役所の価値は低いのです。そうじゃないんだと財宝、お金を儲けて施すということがありません、今の企業は。アメリカのロックフェラー財団やカーネギー財団にみられるように莫大な利益を手に入れたものは国家の仕組みとして財宝、いわゆる分かちあう、市民に対する寄附文化です。ようやくふるさと納税とか寄附という概念が確立されてきたが欧米のいう寄附じゃありません。ごくごく近いところでサントリー財団、京セラの稲森財団とかでいう近いところでニューヨークにあるメトロポリタン美術館とか近代美術館等、博物館、美術館はみんな寄附なんです。入場料ではなく寄附をしてくださいということなんです。何も値段は決まっておらず、寄附をしない人でも入れます。

東京に行き刺激的な環境の中で楽しんで豊かな人生を送ることがむなしいこと、作られた虚像なのだと早く気が付かないといけないと思います。次のジェネレーションは本市のような豊かな自然の中で深みのある歴史のある中でスローライフ、ゆったりした人生を日々過ごすことが本当の豊かさではないのだろうか。幸せというものはお金をもって使うことではないのだということ。お金は手段であって目的ではないということをしかりとこの際、学ぶ大きなチャンスがコロナ禍は与えてくれたのではないのだろうかと思っております。

アフターコロナにおいても本市の素晴らしさはものすごく伸びしろがあると思っています。少数制、人口が増え続ける、量を追い続けることは終わり、「クオリティの時代だ、豊かさ、幸せ感の変換をしようじゃないか」これは行政が指導していかないとだめだと思っています。このようなことも理解した上で、この能登川東小学校はずっと教育をしてくれていると思っています。井上校長以下非常によく頑張ってくれているのですが、ここの心配

市長

ごとは、あと何年かすれば児童数がどんどん減少していくことであります。南小がマンモス化してきます。適正な配分を今、考える時期にきていると思いますので地元の意見や保護者の意見を聞いて真剣に検討する時期にきているのかと思います。

というわけで総合教育会議は教育の中身だけでなく環境とか制度、学区の問題等も含めて、有識者の意見を聞いて、それを学校の運営に反映させていくという大変大きな役割がある会議です。特に沖田委員は、参加していただくのは初めてだと思います。非常に素晴らしい知識を持った方で本音で言ってくくださるし、いろんな知恵を出していただけるとと思いますので、沖田先生を頼っていただけたらいいと思っています。今年度も次回、どれだけできるかわかりませんが、限られた時間ですが、有意義な会議となりますよう、お願いをいたしまして、挨拶とさせていただきます。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきます。教育長よろしくお祈りします。

教育長

皆さん、おはようございます。今年度の第1回総合教育会議に能登川東小学校までお越しいただきありがとうございます。

今回の総合教育会議のテーマは、ただ今市長が申しました「コロナ禍における学校現場の状況と課題の把握」と「6年生が取り組んできた学習についての意見発表」を御覧いただくと思っております。

能登川東小学校は、4月に校区内で感染者が確認された事案が発生し、入学式や始業式において、保護者の皆さんは大変不安感を抱かれる中でのスタートとなりました。そのような中でしたが、地域の皆さんの支えや学校独自の取組により、今日を迎えることができています。この現状を校長からお話を聞いていただければと思います。

最近、小椋市長は、平田オリザさんのお話をよくされます。平田さんは、今の子どもたちの学びに必要なものとして、コミュニケーション教育とワークショップ型の授業の実践を掲げておられ、次のようなことをおっしゃっています。

コミュニケーションは、本来、友だち関係や遊びの中で自然に身についていくものなのですが、今は、少子化の中で学校から帰ってくると母親としか顔を合わせないという子どもも少なくなく、そのような中で友だち作りが苦手な子どもも多くいるのではないかとおっしゃっています。そのようなことから学校で意識的にコミュニケーションについて学ばせる取組が必要になってきているとのこと。

もう一つはワークショップ型の授業についてです。教師が一つの答えを持っていて、それを当てさせるような授業は、教師にとってとても楽なことです。ワークショップ型の授業では、子どもの表現を待つ勇気が何よりも大切です。教師は、子どもからもう少しで表現の芽が出てくるのか、あるいは何も出てこない膠着状態にあって、適切なアドバイスが必要なのか、それを見極める眼、職人的な技術を身につけることが必要であり、もしかしたら、何も出てこないというリスクも背負うことにもなるのです。

このようなことから今日は子どもたちの発表を聞いていただくわけですが、新しいワークショップ形式の学びの中で重ねてきた発表となっております。

子どもたちの自由な発想により、子どもたちがどういうことを得たのかということを感じ取っていただければありがたいと思っています。これからの時代の学びの一コマとして

教育長

御覧いただければとも思っていますし、私も大変楽しみにしております。どうぞ、よろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。本日の出席者は御手元の座席表のとおりです。

また、本日はお忙しい中、助言者として南川副市長に御出席をいただいております。

それでは、議事に入らせていただきます。議事進行につきましては、会議要綱第4条の規定により市長となっておりますが、同条の既定によりあらかじめ指名を受けていますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月の一斉休校に始まり、4月からも幾度となく休校を延長し、結果的に5月末までの休校を余儀なくされ、6月1日から学校再開となりました。その間の学校での様子や再開後の様々な取組について議題にしております。後ほど、校内も見学いただき、子どもたちの様子を見ていただきたいと考えております。また、本日は6年生の意見発表の時間も設けております。盛り沢山の内容となっておりますので、議事がスムーズに運びますよう、皆様の御協力をお願いします。

なお、質問及び協議につきましては、日程の都合で最後にまとめてさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、次第に従い進めさせていただきます。

まず、「コロナ禍における能登川東小学校の取組～今できることを精一杯しよう～」について、井上校長から御説明していただきます。井上先生よろしく願いいたします。

能登川東小学校
校長

(能登川東小学校井上校長説明)

コロナ禍における能登川東小学校の取組

～ 今できることを、精一杯しよう ～

教育部長

ありがとうございました。それでは、校内の見学に移らせていただきます。井上校長に案内していただきます。

校内見学

(校内の見学)

教育部長

お疲れ様でした。続いて、6年生児童の意見発表をしていただきます。

「ドリームプロジェクト」と「世界を救うアクションプラン」について、それぞれの取組内容については、6年生の担任、五十子教諭と岡田教諭に説明をお願いしています。よろしく願いいたします。

(1) 五十子教諭の説明

「ドリームプロジェクト」の発表

(パワーポイントで自ら作成した画像を電子黒板を利用して発表)

・児童 2名 発表

(2) 岡田教諭の説明

「世界を救うアクションプラン」の発表

・児童 2名 意見文発表

※ 意見文を市長に手渡し

教育部長	6年生の皆さん、ありがとうございました。
	(拍手)
教育部長	外交経験のある市長から、一言、発表いただいた皆さんへアドバイスをお願いできますでしょうか。
市長	先生になりたいと言っていた彼、すばらしい先生になると思うので是非、頑張ってください。
	外交官が夢という彼女は、必ず実現させてください。先ほど説明のあったカテゴリーの中の「安全を守る」という仕事を私は一時期やっておりました。
	あとの2人も素晴らしかったです。テーマは食品ロスとオレンジリボンでした。いずれも世界規模の問題でした。そういう目線を置いて、そのレベルで「私はこう思う。」と自分の考え方を発表できるようになれるというのはとても素晴らしいことです。大変よくできました。
教育部長	ありがとうございました。
能登川東小学校長	(能登川東小学校井上校長説明) ～スクールステイの取組について～
教育部長	ありがとうございます。時間が12時までとなっておりますので、あまりないのですが、井上校長からの報告や校内の様子を御覧いただいた感想や御意見、御質問等ありましたら、お一人ずつ、いただければと思います。
綾教育長職務代理者	質問や意見ではないのですが、授業を拝見させていただいたり、先ほどの子どもたちの発表などから、子どもたちが自分たちで興味のあることをいろんな手段や先生方の協力を得て、資料作りをしてしっかりとした発表も聞かせていただいて、教育の方針といたしますか、今年みたいに授業日数も減った中でこのような取組をされたことに対して感心をしました。ありがとうございました。
篠原委員	たくさん言いたいことがありすぎてまとまらないのですが、衝撃的だったのは6年生のクラスの壁面でした。私の息子が6年生なのですが、自分の子のクラスについても教室がどんなのだろうと見てみたい気持ちになりました。先生や子どもの一人一人もですが、集まった時にどんな力が出せるかは、その時の巡り合わせもあると思いますので、一概には言えませんが、アクティブラーニングは今まで半信半疑な部分もありましたが、大切なことだと改めて感じました。
	私は家で塾をやっている状態で、今まで基本的な勉強が大事と言ってきましたが、このようなことをしようとしたときに、力を出し始めた時の学習はこれからは大事であるとわかりました。とって勉強になりました。ありがとうございました。

青地委員

今日は、大変素晴らしいいろんなものを見せていただいてどうもありがとうございます。以前から私が思っておりますのは、職場や学校は一步踏み入れたら全てわかつて思っています。そういう意味では能登川東小学校の取組は学校に一步踏み入れただけで分かったような気がします。特に、授業中の子どもたちの様子、発表の様子を見てますとこれまで培ってきた先生方や取り組んできたことが良く頑張っておられて嬉しく思います。

せっかくですのでアドバイスを申し上げますと、取組はとっても素晴らしいことだと思いますし、先生が認めてこのような場を設けてくれたということです。

常々、私が思っていることですが、子どもたちは一人一人力を持っていると思います。教師はその子どもたちの力をどこでどう引き出すか、発揮させてあげるか、それを作ることが教師の仕事だと思っています。子どもたちがこのような意見を出した時にそれを取り上げてやってくださったことは大きな力になるんだろうと思います。今日の将来の夢を発表してくれた子どもたちがいますが、総合的に学習してきたことを組み立てられてやってこられました。

ここで一つ、アドバイスです。特に、外交官が将来の夢だという子もいらっしゃったので思うのですが、全てとはいいません。3年生から英語の授業やっています。ここまでもってきたのであれば、あの子に英語でスピーチをさせてあげてください。コンパクトでいいんです。外交官を目指すのであれば、そういう場を与えてあげてほしい。それがその子のものすごい将来の力になるだろうと思います。是非、そのようなことも更に組み合わせながら考えていただければ嬉しいです。

修学旅行もできなかった分、とっても良い取組だと思います。最初に市長が地域に帰る子どものおっしゃいましたが、先日、テレビで和歌山県が取り組まれたことで、修学旅行で他県に行かずともできる、自分たちの県なら、自分たちの地域でやるなら良いということに取り組んで、地域で学ぶことを修学旅行形式で実施されていました。そういったことも地域に帰る子どもたちを作ることになるのではないかと思います。

沖田委員

私も今、聞いていて40年間、同志社大学で教壇に立ちましたが、4回生のゼミの演習の発表を聞いているようでした。小学校でこれほどの多様な、個性的な学習をやっておられる。これが中学生になるとリセットされるのです。

6・3・3・4年制で作られた制度で小学校6年間で培ってきたものをもっと伸ばすような小学校と中学校との連携が必要ではないかと考えます。また、中学校から高等学校、高等学校から大学、小学校でこれほどのことをやっているにも関わらず、大学でやっていることは昔の授業からあまり変わっていないように思います。このような日本の教育の中でどう育てていくかが大きな課題です。特に、戦後の6・3・3制度をもう一度見直すようなきっかけ、小学校と中学校の連携をどうやっていくのか、今日の発表をそのまま伸ばしてあげたらすごく良くなっていくと思います。東近江市の中学校でどうこれから活かされるかが今後の課題であります。

もう一つ、教育というのは昔から産婆術ということがいわれており、青地委員がおっしゃったように生きる力は子ども自身が持っていますので、先生が取り上げられるものといわれています。

教育長

いろんな場面を見せていただいて感動しました。私はスクールステイの様子を少し見せて

教育長

いただきました。その時に感じたのは子どもたち自身がやりたいと言ったこともあるんだろうと思いますが、防災教育の事前学習をしっかりとやっていたと感じました。その場でいろんな活動しながら活動の発表をしている場面を見せてもらいましたが事前学習を重ねた中で、そこで実際にやったことを踏まえて、しっかりとした発表ができていると感じたところです。これは今日の発表にもきっちり繋がっているのだろうと感じました。日々の能登川東小学校の取組がしっかりと繋がっているなとも思いました。ありがとうございました。

教育部長

最後に、市長のまとめをお願いできますでしょうか。

市長

ありがとうございました。教育委員のみなさんに現場を見ていただく機会が少なく、今日は、貴重な時間であったと思います。

特に教師になりたいと言った子、あの映像は自分で作ったのでしょうか。小学校6年生のレベルであれだけのものができるのです。私は一切できません。我々の世代はIT、デジタル化に遅れをとっています。もう少しそちらの勉強をしないといけないと思っています。

校内見学中、授業である児童に「君は何をやっているの」と聞いたところ「プログラミングをやっている。」と答えてくれました。まさにクリエイターですよ。良い悪いは別としてあきらかに時代は変わっています。

GIGAスクール構想で恐ろしいお金を投資します。それがプラスになればいいのですが、諸刃の刃なんです。デジタル化というのは。デジタル化は手段であって目的でないのです。

今日はテーマがなかなかおもしろかったと思っています。ただ、先生にお願いしておきたいのはSDGsを正確に理解していただきたい。あれはあくまでも国際間における助け合いなのです。SDGsの17項目の内、日本は既に1～6まで達成しています。飢え死にする子なんかいやしないし、蛇口をひねれば全国どこでも飲める水が出ます。

コロナ感染して、アフリカタンザニアなんかの地域は消毒する水がない、飲める水がない。それに雨水を飲んで体を悪くする。それをみてるからちょっと日本は勘違いしています。

ディベロップメントというのは開発です。後進国をどう先進国並みにするかが目標なんです。それをどこでどう間違ったか。戦後の企業、企業の社会的貢献、「あなたたちは金儲けが一番で、社会貢献が2の次ですよ」と言ってあげないと安心して金儲けできないのです。社会貢献して企業がつぶれてはもともこもないのです。

子どもたちに勘違いをしないように非常に大事なことでありますが、国際間の国家として重要なことです。国連で採択された意味合いが間違っただけで伝わったような気がして、自分の家はどうか、会社はどうかということを置き換えるのは間違いであって、非常に落とし穴があるということです。SDGsを正確に理解し、教えてあげてほしいと思います。

コロナ禍の中、うまく乗り越えてくれました。校長以下の頑張りに心から頭が下がる思いです。まだまだ戦いは続いています。この10箇月で知恵、知識、経験値がついてきているのでなんとか乗り越えていけるかと思っています。青地委員がおっしゃったように修学旅行もうまく転換してくれました。あと大事なことは、イメージトレーニングをしておくこと、「今、地震がおきたら、あなたはどのような行動をおこしますか？」っていうことを月一回でよいのでやっておいてほしいです。危機管理上大事なことです。特にここは水がつく地域です。大事なことは先ほど教育長が言ったように、準備をして実践するということです。

市長

そういった意味で「かまどベンチ」、私が危機管理監をやっていたときに初めて県下でコンクールをやりました。私は審査委員長をやり、その時に輝いたのが旧湖東町の長町自治会が作った「かまどベンチ」の発表でした。

「かまどベンチ」がここにあるというのは驚きました。県下に普及させようと校庭の端のベンチを全部それに変えようということで、それは当時の私の防災政策でした。

防災対策もやっていただいているということで、身近な地元に着した教育をやっていただいているなと思います。

今日、一番びっくりしたのは英語です。3年生であのレベルでやっていることは凄いことだと思います。かなりリスニングができるようになっているのではないかと思います。ALTの先生も決してわかりやすい英語を話してはいません。あれだけのものに慣れること、あれがほんとの英語教育だと思います。私の実感としては中学校2年生程度の英語の力があれば世界どこへいっても十分生きていけると思っています。

現場に来て見ましたが、これが電子黒板ですね。有効活用していただいているとわかりましたし、今日は、とても充実した総合教育会議でした。ありがとうございました。

教育部長

本日の議題は以上です。以上をもちまして、第1回総合教育会議育委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

会議終了

午前12時5分